

# 地域コミュニティプラン

第2期（令和4年度～8年度）



前之浜地域まちづくり協議会



## 『 目 次 』

I	プラン策定について	1
1	プラン策定の趣旨	1
2	第1期の成果と課題	1
3	計画の期間	1
II	前之浜地域の概要	2
1	前之浜地域の特色ある風景・施設・歴史・文化等	2
III	前之浜地域の現状と課題	5
IV	まちづくりの目標	11
1	目標（スローガン）	11
2	運営方針	11
3	活動の体系図	12
V	事業計画	13
VI	資料	19

# I プラン策定について

## 1 プラン策定の趣旨

前之浜地域まちづくり協議会は、少子高齢化や人口減少が進み、社会環境が大きく変化し、住民の生活様式や連帯意識の希薄化が生まれる状況の中でも、今までの公民館活動を継承しつつ、新しい分野でも活動が広がることを期待しながらあらゆる構成団体と連携し、第1期地域コミュニティプランに基づく事業を実施する中で課題の解決に向けて取り組んできた。

これまでの成果を生かしながら、新たな地域課題を明らかにして、地域資源を活用するなど前之浜地域のよさを生かしながら住民主体のまちづくりに取り組み、課題を解決していくために、第2期地域コミュニティプランを策定することにした。

## 2 第1期の成果と課題

### (1) 成果

- ・前之浜地域まちづくり協議会の名称が浸透してきている。
- ・従来の既存の行事を踏襲する地域づくりから課題を解決する地域づくりへの方向性が明らかになった。
- ・各部会の役割分担が明確になり、主体的に取り組む姿勢が見られた。
- ・事業の実施により、住民の地域づくりに対する関心が高まった。

### (2) 課題

- ・1期の後半部分（2年間）は新型コロナウイルス感染症拡大により事業のほとんどが実施できない状況があった。実施できなかった事業を再構築する努力が必要となる。
- ・目標達成にはまだまだ程遠いが、各事業において少しずつでも絆を深める視点を忘れず取り組んでいきたい。
- ・各部会の実施要項に沿った事業の取り組みにおいて一定の成果を上げることができたが、主体的な事前の部会の開催が不十分であった。
- ・部会の開催が不十分であると、構成団体間の協力体制が希薄になってきている現状がある。
- ・コミュニティビジネスが話題には上るのだが、その実現に向けての具体的手立てを講じることができていない。
- ・役員の担い手を決めることに苦勞をしている。人材の育成が最大の課題である。

## 3 計画の期間

令和4年度 ～ 令和8年度の5年間（2022年度～2026年度）



## Ⅱ 前之浜地域の概要

### 1 前之浜地域の特色ある風景・施設・歴史・文化等

前之浜地域は、喜入校区と生見校区の中間に位置し、川上、川中、川下、鈴の4集落からなっている。面積は約12.36km<sup>2</sup>と喜入地域内でもっとも広く、令和3年度現在で、人口約1,050人、世帯数は約570世帯で、喜入地域全体に対する人口比率は約10%である。川上、川中、川下集落の中央を貝底川が流れ、鈴集落の中央を鈴川が流れている。両川の流域には田んぼが広がり、特に貝底川の上流には、山あいまで石積みの棚田が続いている。その川沿いはホタルの棲息地で、初夏の風物詩となっている。棚田は、耕作者が減少し、放棄地が増えつつある状況である。

地域の東側は鹿児島湾(錦江湾)の海岸線が続き、市の自然百選に挙げられており、ウミガメが年に数回産卵に上陸している。

前之浜地域は、農業が盛んで、稲作のほか、地域の北側と南側の台地の畑では、各種野菜、みかん、スイートコーン、花などを栽培している。

また、前之浜地域は、貝底川流域を中心に、縄文・弥生時代の石器や土器が出土した遺跡があり、太古から人々が生活した地域であることがわかる。

#### 【 校区の施設等 】

- ・前之浜校区公民館
- ・前之浜小学校
- ・前之浜保育園
- ・前之浜郵便局
- ・前之浜駅
- ・喜入の里
- ・各集落センター
- ・前之浜わいわい市
- ・水神社
- ・鈴神社

#### 【 校区の伝統芸能 】

- ・チョイのチョイ踊り
- ・(鈴の猿の子踊り)

#### 【 校区の産業 】

- ・専業農家 19戸
  - ・兼業農家 14戸
  - ・水田面積 91.3ha
  - ・畑地面積 117.1ha
  - ・樹園地 5.0ha
- (令和3年市役所調べ)

#### 【 校区の文化財等 】

- ・比丘尼定阿五輪塔
- ・堀家来迎阿弥陀如来像
- ・白灰焼窯(ヘタツゴヤ)
- ・貝底橋(眼鏡橋)
- ・善太桜
- ・鈴の虚空菩薩
- ・鈴のアッカドン
- ・鈴の田の神
- ・政崩遺跡

#### 【 校区の団体等 】

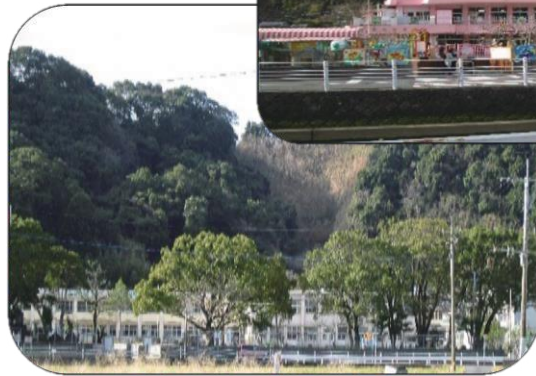
- ・校区社会福祉協議会
- ・ともしびグループ
- ・前之浜消防分団
- ・自主防災会
- ・高齢者クラブ
- ・チョイのチョイ踊り保存会

#### 【 校区の人口(年齢構成)令和4・1・1現在 】

0～9歳	33人	60～69歳	198人
10～19歳	71人	70～79歳	216人
20～29歳	42人	80～89歳	133人
30～39歳	46人	90～99歳	83人
40～49歳	98人	100歳～	3人
50～59歳	112人	(人口)	1,035人



前之浜校区公民館



前之浜小学校



前之浜保育園



前之浜郵便局



前之浜駅



喜入の里



水神社



善太桜・桜並木



チョイのチョイ踊り



五輪塔と堀家阿弥陀如来像



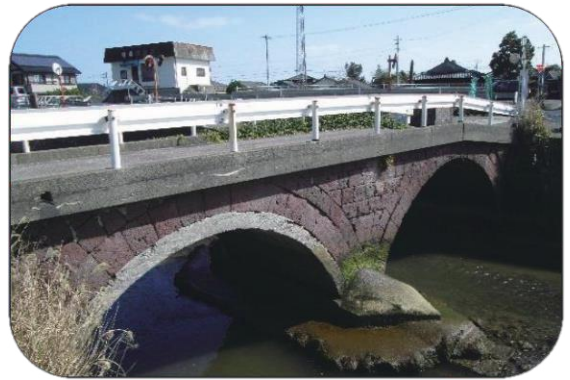
前之浜わいわい市



白灰焼窯跡 〈ヘタッゴヤ〉



コスモス祭

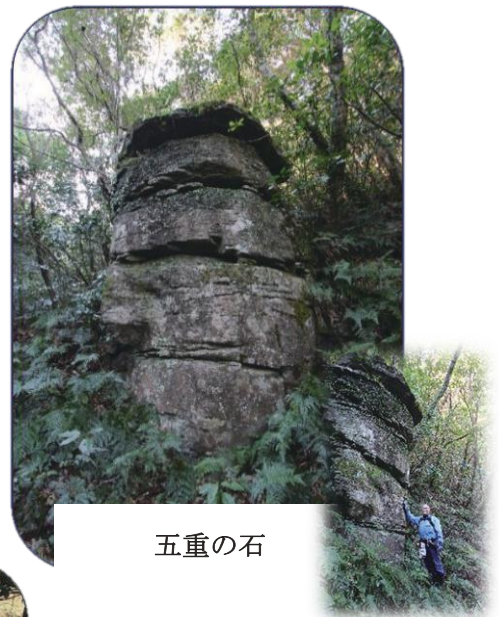


貝底橋 (眼鏡橋)



ホタル棲息地

棚田・ホタル棲息地



五重の石



鈴の虚空菩薩



鈴のアッカドンと田の神



## Ⅲ 前之浜地域の現状と課題

### ① まちづくり部会

#### ■ 現 状

- 前之浜地域は、商工業的な施設がほとんどなく純農村地域である。奥に山林、中央を流れる貝底川、そして海（錦江湾）もあり豊かな自然環境に恵まれている。その中で、特に農業が中心で、田や畑で豊富な農作物が収穫できる。
- 前之浜地域の高齢化率は年々増加傾向にあり、喜入地域の中でも高い方である。したがって、今後さらに進んでいく高齢化社会の中での生活、医療、介護、防犯・防災対策などについての充実が求められるが、幸い住民には支え合う気持ちがあり、また、高齢者施設が近くにあって利用者も多い。
- 高齢化とともに少子化も大きな問題であり、現在の小学校の全校児童数は33名（令和3年度）である。地域の将来を担う子どもたちへの支援、さらに増えていく高齢者への支援などの充実が求められている。
- 地域の環境問題で関心が高いのは、近隣の空き地や空き家である。繁った草木の処理、防犯、安全の観点からも苦情が寄せられることがある。令和2年度の空家調査で、地域全体で183戸が空家になっており、約3分の1に当たる。  
さらに、犬や猫のフンの放置、ごみステーションのマナーについても問題視する声がある。
- 地域内に前之浜地区わいわい市があることからか、コミュニティビジネスに関心のある人が多く、その内容は、農産物の直売所のほか、高齢者福祉サービスや食事施設の管理運営などの意見はあるが、具体的に実現できない状況である。
- 前之浜地域の主行事になっている「コスモス祭」については、予算や協力者について心配の声はあるものの、継続の意見が大多数である。最近になり、雑草がはびこり対策を余儀なくされた。新型コロナウイルス感染拡大防止対策と相まって祭を中止せざるを得なかった。

#### ■ 課 題

- 前之浜地域は、少子高齢化がますます進行することは確実である。もともと住民の結びつきの強い地域である。少子高齢化の中で、さらに絆を深める手立てを模索していく必要がある。
- 前之浜のまちづくりには若い力がどうしても欠かせない。人材はいるので発掘に努めたい。学校のPTA活動での協力や若い人に地域の組織や事業に参加してもらう手立てなど工夫していく必要がある。
- 環境問題として空き家の問題がある。その解消対策ができない状況にある。  
また、ごみステーションの美化保全についても、まち美化推進委員等の協力を得ながら意識を高めていきたい。
- コスモス祭を再構築するには厳しいものがあるが、地域全体で知恵を出し合いながら協力体制を作り上げコスモス祭の継続をしていき、事業をさらに盛り上げていく必要がある。





## ② 安心安全部会

### ■ 現 状

- 喜入地域では交番が一つになったが、前之浜地域を定期的にパトロールしてもらっている。地域内の犯罪等の発生は少ないものの空き巣被害や農産物や農器具等の窃盗が発生している。外出時の施錠をしない家庭があるので啓発が必要である。
- 各集落内の防犯灯の設置・修理・電球の交換等の管理は各集落で行ってもらっている。
- 国道は、交通量が多く、車道と歩道の区別はあるものの歩道が狭く、ガードレールの設置されていないところがある。その設置による安全対策が望まれる。  
また、保育園や小学校がある貝底川沿いの道路を、スピードを出して走る車があり、危険を感じることもある。スクールゾーンとして、速度制限を求める意見がある。
- 災害に対する住民の不安は、「台風に対して」が一番多い。次いで、崖崩れ・山崩れ、火災、桜島の大噴火、大津波・大地震と続く。  
近年の気象状況の中で、台風や豪雨による集落内の川の氾濫や住宅の背後に急傾斜地を抱えるところでは、土砂崩れの被害を心配する声が多いのは当然である。  
災害が発生した場合は、前之浜消防分団に頼らざるを得ない状況である。また、災害時の校区内と各集落内の連絡網の確立を図る必要がある。
- 災害が発生したときは、指定緊急避難場所として校区公民館が指定されているが、洪水の場合は標高が2メートルしかなく避難場所としては逆に危ないのではという声がある。ほかに避難場所としての施設もなく早めの避難が必要である。



### ■ 課 題

- 日頃より、災害はいつ何時起こるかわからないという意識をもって、避難場所や一時避難場所の確認、危険箇所の点検や安全マップの確認などにより、災害に対する備えへの意識を高めておく必要がある。
- 避難訓練や防災訓練には、高齢者や病気などで動けない人などの弱者や、訓練に関心がなく参加しない人への対応が課題である。また、これまで、防災訓練については、2年に1回実施をしているが、豪雨による水害や高潮、地震による被害など最近の各地での災害の状況を踏まえて、想定を変えて毎年訓練を実施することも検討する必要がある。



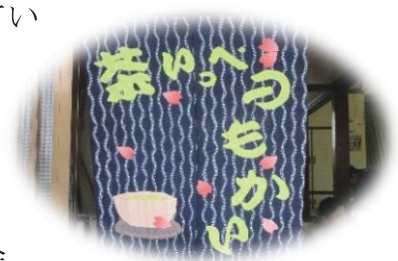
### ③ 福祉部会

#### ■ 現 状

- 住民の近所とのつきあい方は、少子高齢化や都会化の影響で近所づきあいが希薄になりつつあり、中には面倒くさいと感じている人もいる。また、高齢者で体を動かしにくくなっている人は、つきあいが疎遠になっていることも考えられる。
- 近所づきあいを深めるには、あいさつや世間話などの声掛けをはじめ、集落や校区のいろいろな行事にも積極的に参加し、ふれあいや交流を深めることが大事である。また、緊急時や災害時に助け合ったり、日頃から声をかけ見守ったりすることが必要である。
- 困っている人や助けのいる人に対しては、住民のほとんどの人が手を差し伸べてあげたいという思いを持っていると思われる。しかし、自身のことで手いっぱいであり、他人まで手が回らないと感じている人もいる。
- 住民の悩みや不安で一番多いのが「自分や家族の健康・病気」である。さらに、「老後の生活」を挙げる人が多いが、高齢化の中で先々の生活や健康を心配している。次第に増えてきている一人暮らしをしている人にとっては、一層気がかりな事柄である。
- 高齢者の見守り活動を望む声が多いが、社会福祉協議会や民生委員を中心にきめ細かに行われている。何といたっても日頃からつきあいのある隣近所の方の声かけ、見守りを大切に考えている。前之浜地域まちづくり協議会としては、校区社会福祉協議会の活動に対し全面的な協力態勢の強化に努める。
- 少子化の中で、子育て中の世帯は多くはないが、子育ての悩みなどで支援を求める声がある。子育て中の若い世代の支援も大切な視点である。
- 敬老会は、集落ごとに各集落センターで実施するか地域全体での合同敬老会を実施するか検討中である。  
高齢者の交流活動としては、高齢者交流サロン（茶いっぺのもかい）と高齢者ふれあい活動（お達者クラブ）があり、楽しく活動している。

#### ■ 課 題

- 集落や近所が次第にまとまりにくくなっている中で、花見やスポーツ活動などの催しを通してふれあいの機会を持つことがだんだん少なくなりつつある。住民同士の絆を深めるためにも、人が集まり交流する機会を充実させていきたい。
- まちづくり協議会や各集落に望むサービスとして「趣味や特技での集い」「交流の場所づくり」「健康づくり」「悩み事相談サービス」が挙げられているが、ふれあいサロンやふれあいスポーツ、障がい者支援など、関係の各部会と連携した事業を検討していく必要がある。



## ④ 社会教育部会

### ■ 現 状

- 年間約10講座を実施している「成人学級・女性学級」の参加者は、高齢者が中心で、メンバーの固定化がみられる。平日開催が多いことや、働き盛りの世代で参加しにくいこと、参加の意思があっても期日が合わないこと、交通手段等の問題で参加できにくいということも考えられる。
- 喜入地域の趣味講座や自主学習グループに、自ら参加している人は少数ではあるが、歌やコーラス、民謡教室、体操・卓球などのスポーツ、手芸や書道などに取り組んでいる人がいる。ただ、そのようなグループの存在が知られていないという実態もある。

年間計画を立てるとき、希望の講座を聞いて作成するのだが、新しい講座を決定するのが年々難しくなっている。
- 校区文化祭の展示作品の応募が多くないため、毎年参加呼びかけに苦労がある。青少年育成大会と同時開催にしているが、大会終了と同時に見学者がいなくなるという実態がある。
- 今後、地域で開催したい講座や学習会・講演会の内容としては、趣味に関する希望が多い。また、生き方を学ぶ講演会や介護に関する講座、歌声などの講座の希望もある。
- 各集落の高齢者クラブでは、お茶飲み会やゲーム大会・グラウンドゴルフや忘年会など、交流融和を図り、絆を深める活動を展開している。
- 郷土芸能の「チョイのチョイ踊り」については関心が高く、住民が誇りを持っている。保存会の指導により、小学校校区合同運動会で3年生から6年生までの児童が踊りを習得し、発表をしている。また、要請があれば、外部の催しに出演したり、県の郷土芸能ガイドブックにも掲載されたりして広く知られている。

### ■ 課 題

- 成人学級・女性学級等への参加者募集は、回覧や放送等ではなかなか参加者を増やすことが難しい。場所や開催日、曜日、時間帯、内容の工夫に、より効果が期待できる参加者等の口コミでの周知を図りたい。
- 喜入地域や前之浜地域の歴史や史跡等に触れる機会がなかった人が意外と多い。ふるさと前之浜の史跡めぐりをしたり、歴史の学習をしたりする機会を検討したい。
- 「チョイのチョイ踊り」は、小学生への指導により保存継承の手立てがとられているが、指導者の世代交代やわらじ作り、鬼面作り、鬼面の踊り手継承などの課題がある。



## ⑤ 青少年育成部会

### ■ 現 状

- あいご会について知っている人は意外と少ない。子どもや孫がいて行事等に参加したことがある人たちは知っていると思われるが、中には、子ども会と混同している住民もいる。あいご会についてはもっと住民に知ってもらう広報の工夫も必要である。
- 住民が青少年の健全育成のために協力したいこととして、あいさつ声かけ・見守り活動を挙げる人が多い。あいさつは、しつけの基本であり、逆に住民があいさつすることは見守り活動にもつながる。また、悪いことをしていたら注意することが大事だと考える人も多い。
- 地域を住みよいまちにするためには「あいさつ」が大事だと考えている大人や子どもが多く、お互いにあいさつを交わしている状況である。児童数が減少し、学校外で子どもを見かけることが少なくなってきた中、あいさつ声かけをすることは大切である。
- 前之浜地域の中学生や高校生は、列車通学を強いられている中で、駅の無人化や便数の減少などその利便性が年々悪くなっている。さらに、保護者の負担も大きくなっている。
- 最近の青少年問題では、いじめ問題への関心が高い。地域内の児童生徒の中では大きな問題はないが、留意しておく必要がある。  
インターネット・携帯犯罪も社会の大きな問題になっているので、保護者の管理の下で正しく使用させるなどの対策が必要である。
- 前之浜の子どもたちに期待することとして、「思いやりのある子ども」「マナー・ルールを守る子ども」「友人を大切にすること」「協調性のある子ども」が挙げられている。大人が態度で示していくことが大事であるという意見もある。
- 青少年健全育成大会や立志式で子どもたちの主張を聞くことは子どもたちの成長を理解する楽しい機会である。内容等を工夫しながら継続を望む声が多い。

### ■ 課 題

- 自分の子どもの教育は保護者の責任であることは間違いない。しかし、地域で子どもを見守ることが少なくなっている状況である。学校やPTA活動にも協力できるところは協力していくことで子どもたちとの交流もできてくる。それが子どもたちを見守っていくことにもつながっていく。
- 郷土愛をはぐくむためには、前之浜のよさを子どもたちに伝えていく機会を作り、いろいろな事業にも参加してもらう手立てを工夫しながら、心に残るようにしていくことが大切である。



## ⑥ 社会体育部会

### ■ 現 状

- 地域で行っているスポーツ大会は、小学校校区合同運動会と校区盆相撲大会であるが、少子高齢化が進み、また若い世帯では仕事・育児に専念するため、参加する人が年々少なくなっている。このような現状にある中、どちらの大会も継続したいという意見と、一部に取り止めの改善意見がある。
- スポーツの目的は、体力・健康づくり、仲間づくり、楽しさの探求である。前之浜地域は、その歴史から見ても、喜入地域のみならず、県下にも名前を知らしめた体育圏である。
- 体育大会、相撲大会、グラウンドゴルフは、喜入地区の校区対抗大会に参加している。前之浜校区では、だれでも実施できるウォーキング等を取り入れて、健康づくりと住民の触れ合いを兼ねて実施している。
- グラウンドゴルフ愛好者やスポーツ少年団の活動場所は、小学校の運動場であるが使用に制限がある。喜入地区のスポーツ施設では、サッカー、卓球、バレーボール、バドミントン、グラウンドゴルフなど、いろいろなスポーツが実施可能であるが、使用に当たっては移動手段や手続きなどの時間と労力を要する。このような中、住民は自宅周辺や川沿い、堤防などでウォーキングを楽しんでいる人が多い。
- 今後計画してほしいスポーツとしては、健康づくりを目的としたものや、年齢を問わずみんなで楽しみながら行う競技を希望している。また、自分の体力を知るための体力測定を希望している。

### ■ 課 題

- 普段から健康づくりのためウォーキングを実践している人が多く、今後もウォーキング大会開催の希望が多い。楽しく参加できるように目標を立て、健康づくりを主体に計画する必要がある。
- 校区運動会は、参加者数が限定されるので、競技種目、競技内容を見直し、実施要領等を工夫することにより、多くの人に参加できるように計画する。校区盆相撲大会も運営方法の改善及び多くの人への応援が得られるよう工夫が必要である。
- 自分の体力の把握、日ごろの健康づくりの成果の確認、また運動を実施するための基準となるよう、体力測定を検討する。
- 気軽にできるニュースポーツ、様々な人々が参加できるスポーツの導入を検討する。これに必要な運動用具の取得にも努める。
- グラウンドゴルフなどのスポーツが、何時でも簡単にできる運動広場の整備を検討する。



## Ⅳ まちづくりの目標

### 1 目標（スローガン）

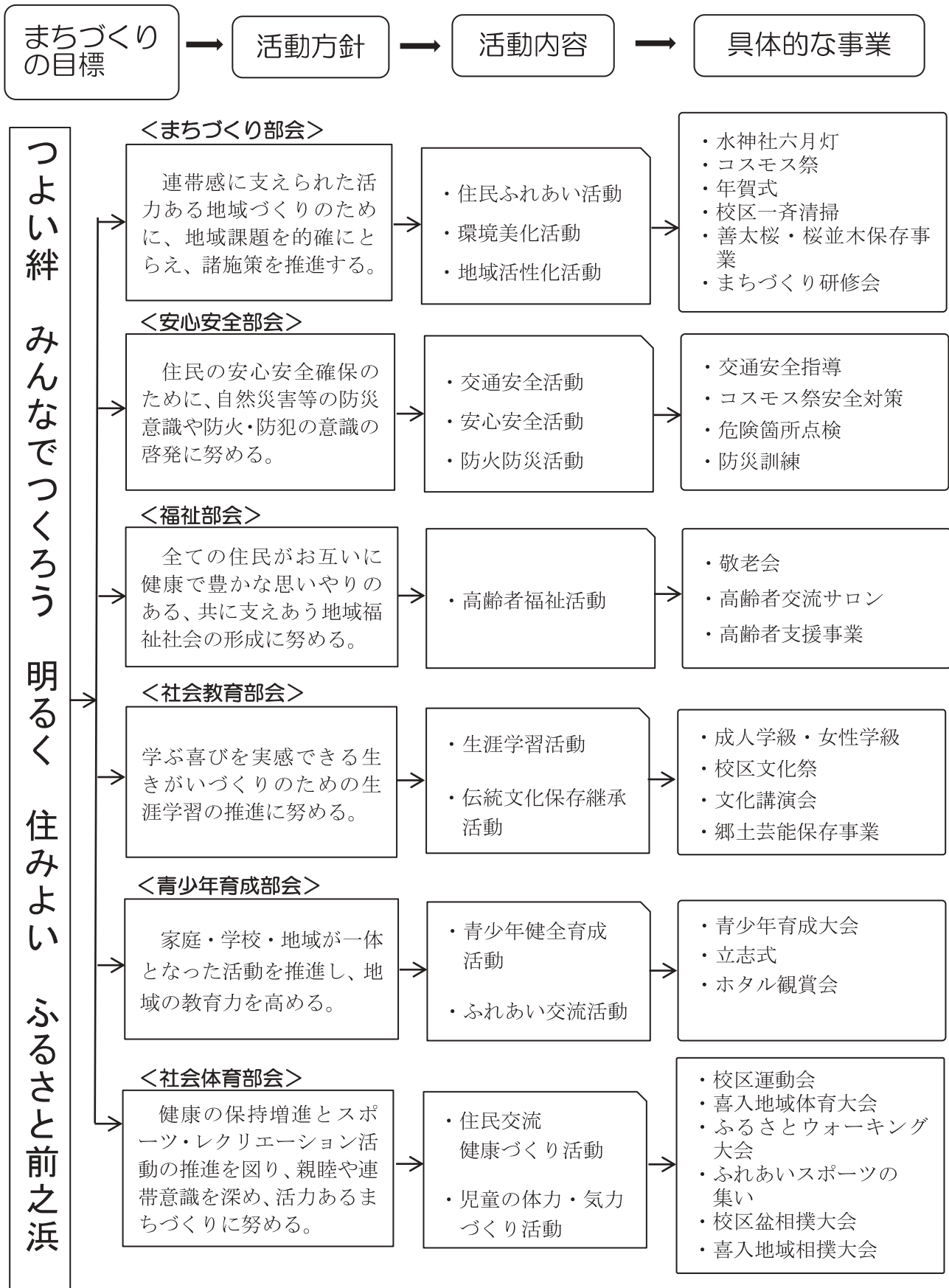
つよい絆 みんなでつくろう  
明るく 住みよい  
ふるさと前之浜

### 2 運営方針

- (1) 地域住民が親和と協力の連帯感をもって、地域の発展と生活環境の整備を図り、すべての住民がお互いに仲良く助け合う気持ちを持ちながら活力ある明るく住みよい地域づくりを推進する。
- (2) 子どもから高齢者までの住民みんなが夢や希望を持ち続けられるように共に支え合い励まし合いながら楽しく暮らしていける心豊かな地域づくりを推進する。
- (3) みんなでつくる地域づくりを基本に、役割分担した各部会が主体的かつ積極的に事業を推進する。
- (4) 地域内各種構成団体との連携・協調を図り、効率的に事業を推進する。
- (5) 地域の課題や地域づくりへの住民の声を大切にしたコミュニティプランをもとに、自助・共助による実現を目指すとともに、関係機関との連携（公助）による活動の充実を図る。



### 3 活動の体系図



## V 事業計画

番号	部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
1	ま ち づ く り 部 会	連帯感に支えられた活力ある地域づくりのために、地域課題を的確にとらえ、諸施策を推進する。	住民ふれあい活動	水神社六月灯	水神社の夏の例祭(7月18日)に合わせて、園児、小中学生、一般がつくった灯籠を飾り、地域の豊穡を祈る機会とする。
2				コスモス祭	早期米の収穫後の田んぼにコスモスを育て、舞台での演芸や農産物の販売、出店などで校区内外の人々に楽しんでもらう。
3				年賀式	伝統行事として、一年の始まりの日に住民が集って、新しい年を祝い、一年の健康と幸福を願う。
4			環境美化活動	校区一斉清掃	年2回、各種団体・町内会ごとに清掃範囲及び内容を決め、住民が分担して清掃や草刈作業等に当たる。
5			地域活性化活動	善太桜・桜並木保存事業	関係機関と連携し、古木善太桜の保存に努めるとともに、桜並木の環境整備をする。
6			まちづくり研修会	まちづくり研究者や実践家を招いて講演を聴いたり、まちづくり先進地に出向いて見聞を広めたりするなど研修の機会とする。	
7	安 心 全 部 会	住民の安心安全確保のために、自然災害等の防災意識や防火・防犯の意識の啓発に努める。	交通安全活動	交通安全指導	児童生徒の登下校時や交通安全運動期間内に、関係機関や各団体と連携を図り、横断歩道や交差点、通学路等で指導を行う。
8			安心安全活動	コスモス祭 安全対策	コスモス祭への参加者の駐車場案内や交通整理、不審者対策や事故防止のための会場内の見回りを行う。
9				危険箇所点検	関係団体等と連携し、集落長や住民の意見を参考に、危険箇所を確認して対策を検討し改善を図る。



## No.1

事業効果	事業スケジュール(年度)					新規/ 継続	備 考
	4	5	6	7	8		
灯籠をつくることにより、お互いの交流を図ることができる。また、水神社に奉納することで地域への思いを深める機会となる。	○	○	○	○	○	継続	灯籠づくり同好会
前之浜の一大イベントとして祭を実施することにより、校区内外の人々のふれあいの場となり、住民の絆と連帯が深まる。	○	○	○	○	○	継続	喜入の里
元日に、住民が集い、新年を祝うことにより、住民の絆と連帯が深まる。	○	○	○	○	○	継続	
住民総出で清掃や草刈作業等を行うことによって、住民同士の絆と連帯意識が深まり、整備された環境が維持される。	○	○	○	○	○	継続	喜入総務市民課
善太桜及び桜並木周辺の整備により、校区内外から訪れる人々の目を楽しませることができる。	○	○	○	○	○	継続	喜入農林事務所
まちづくりの理念や具体的な手法を学ぶことにより、前之浜のよさを生かした今後のまちづくりに役立てることができる。	○	○	○	○	○	継続	社会教育部会 校区社会福祉協議会
交通ルールやマナーの啓発により、児童生徒の登下校時や住民の日ごろの交通事故防止につながる。	○	○	○	○	○	継続	喜入交番 交通安全協会 児童通学保護員 スクールゾーン委員会
多くの人が集まるコスモス祭での交通事故やその他の事故防止対策をとることにより、参加者が安心して祭を楽しむことができる。	○	○	○	○	○	継続	前之浜消防分団 自衛隊OB会
危険箇所を改善することにより、危険を回避できたり、災害時の被害を最小限にとどめたりできる。	○	○	○	○	○	継続	前之浜消防分団 前之浜小学校

番号	部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
10	安心安全		防火防災活動	防災訓練	火災による災害や台風、大雨、地震、津波などの自然災害を想定した訓練を、関係機関等の指導を受けながら実施する。
11	福祉部会	全ての住民がお互いに健康で豊かな思いやりのある、共に支えあう地域福祉社会の形成に努める。	高齢者福祉活動	敬老会	75歳以上の高齢者を招待し、長寿をお祝いして、これまでの功績をたたえる集いを開催する。
12				高齢者交流サロン	高齢者の方々が、気軽に集まり、お茶を飲みながら気兼ねなく、楽しく語り合う場を提供する。
13				高齢者支援事業	高齢者ふれあい活動・集落ごとに組織した高齢者クラブが、充実した活動を展開していけるように、希望を生かしながら講座や教室等の支援をする。
14	社会教育委員会	学ぶ喜びを実感できる生きがいをづくりのための生涯学習の推進に努める。	生涯学習活動	成人学級・女性学級	社会の変化に伴う必要課題や住民の要望及び地域の課題などについて講座を開設し、講師を招くなどして学び合う。
15				校区文化祭	日ごろの生涯学習の成果の発表の場として、展示の機会と、住民への広報等による学びの機会を提供する。
16				文化講演会	生涯学習の一環として、歴史や文化に関すること、生き方を学ぶことなどの講演会を開催する。
17			伝統文化保存継承活動	郷土芸能保存事業	児童へのチョイのチョイ踊りの指導、定期的な練習を継続している保存会への支援と住民への踊りの披露の場を提供する。
18	青少年育成部会	家庭・学校・地域が一体となった活動を推進し、地域の教育力を高める。	青少年健全育成活動	青少年育成大会	子どもたちが自ら運営し、パフォーマンスや体験・意見発表等を行う。また、関係者・住民が子どもたちを励ます場とする。
19				立志式	校区の中学2年生を対象に、将来への決意や周囲への感謝を述べる機会とする。関係者・住民で祝い励ます。

事業効果	事業スケジュール(年度)					新規/ 継続	備 考
	4	5	6	7	8		
住民が、様々な災害から身を守るための知識を身に付け、災害時に適切な行動がとれるとともに、防災意識の高揚が図られる。	○	—	○	—	○	継続	自主防災会 南消防署喜入分遣隊 前之浜消防分団
地域の先輩たちに敬意を表し、お祝いの気持ちを伝えることにより、お互いの心の交流が図られる。	○	○	○	○	○	継続	
一人暮らしで話し相手を求める高齢者等が、サロンに気兼ねなく立ち寄り、交流することで孤独感が解消される。	○	○	○	○	○	継続	
高齢者ふれあい活動・高齢者クラブの活動の活性化が図られ、会員が集いを楽しみに、明るく元気に暮らせる。また、会員増にもつながる。	○	○	○	○	○	継続	
社会生活上の様々な課題について学習する中で、必要な教養や知識・技能を修得して、その成果を生活に生かすことができる。	○	○	○	○	○	継続	
住民の生涯学習活動への意欲が高まり、豊かな生き方につながるとともに、明るく楽しいまちづくりに寄与できる。	○	○	○	○	○	継続	青少年育成部会
講演会を通して、住民の教養や文化に対する関心が高まり、生涯学び続けようとする人々への一助となる。	○	○	○	○	○	継続	
地域の先人が継承してきたチョイのチョイ踊りを後世に伝え、校区内外に紹介することができる。	○	○	○	○	○	継続	チョイのチョイ踊り 保存会
大会での発表等をおして、自らを見つめる機会になるとともに、住民が子どもたちの成長を感じることができる。	○	○	○	○	○	継続	校区あいご会
立志式の中で、決意を述べたり、祝福を受けたりすることで、地域の一員であることの自覚と誇りをもつようになる。	○	○	○	○	○	継続	校区あいご会

番号	部会	活動方針	活動内容	事業名	事業内容
20	青少年育成部	家庭・学校・地域が一体となった活動を推進し、地域の教育力を高める。	ふれあい交流活動	ホタル観賞会	5月中旬ごろ、ホタルの学習会と鑑賞会を計画し、初夏の風物詩を楽しむ。
21	社会体育部会	健康の保持増進とスポーツ・レクリエーション活動の推進を図り、親睦や連帯意識を深め、活力あるまちづくりに努める。	住民交流健康づくり活動	校区運動会	前之浜小学校大運動会との合同開催とし、住民が楽しく気軽に参加できる種目を設定するとともに、大会の運営にあたる。
22				喜入地域体育大会	出場選手選考、中学生の応援団および校区の役員を組織する。大会運営に当たっては、選手が全力で競技に臨めるようにする。
23				ふるさとウォーキング大会	校区内に、体力の維持向上に資する程度のチェックポイントを設定する。個人の体調を管理しながらウォーキングを楽しむ。
24				ふれあいスポーツの集い	住民が気軽に参加でき、簡単に実施できるスポーツ（レクリエーション的なスポーツを含む）を紹介、体験させる。スポーツの楽しさを知ってもらい、継続実施につなげていく。
25				校区盆相撲大会	園児・小学生の参加希望者を募り、相撲の基礎を教示し、指導する。競技として対応できるよう練習させる。
26	喜入地域相撲大会	校区盆相撲大会で選考した選手を団体戦・個人戦に参加する。			

## No.3

事業効果	事業スケジュール(年度)					新規/ 継続	備 考
	4	5	6	7	8		
校区内の自然を知る機会となり、世代間の交流を育み親睦が図られる。	○	○	○	○	○	新規	校区あいご会 家庭教育学級 成人学級・女性学級
住民との親睦と融和が図られるとともに、児童生徒、園児を知る機会になる。	○	○	○	○	○	継続	前之浜小学校
住民が一体となり、競技への参加・応援・大会運営等、協力し合うことにより、住民間の絆が育まれる。	○	○	○	○	○	継続	
コース上の自然、風景、史跡、施設等を楽しみながらふるさとを再認識できるとともに、健康体力向上に資する。	○	—	○	—	○	継続	社会教育部会
年代にかかわらず、多くの人に参加でき、楽しみながら体を動かすことができる。住民間の親睦が深められる。	—	○	—	○	—	継続	
相撲の基礎が理解でき、競技を通じて礼儀と気力が養われ、体力向上に資する。	○	○	○	○	○	継続	
相撲の基礎が理解でき、競技を通じて礼儀と気力が養われ、体力向上に資する。	○	○	○	○	○	継続	

## VI 資料

### 1 プラン策定の経過

令和2年度

9月25日	第1回プラン策定委員会	プラン策定の概要・内容とスケジュール決定 住民の意見徴収方法
10月23日	第2回プラン策定委員会	1期各部会の成果と課題の提起
11月27日		1期各部会の成果と課題の検討(3部会)
12月18日	第3回プラン策定委員会	1期各部会の成果と課題の検討(3部会) アンケート実施、集計、分析日程の決定
1月22日	第4回プラン策定委員会	各部会の成果と課題まとめ
2月26日	第5回プラン策定委員会	アンケート結果集計まとめ
3月19日	第6回プラン策定委員会	アンケート結果の分析検討 2期プラン策定計画案の承認

令和3年度

6月25日	第1回プラン策定委員会	協議会の成果と課題の提起 協議会の現状と課題の提起
7月30日	第2回プラン策定委員会	協議会の成果と課題の検討 協議会の現状と課題の検討
8月27日	第3回プラン策定委員会	各部会の現状と課題の提起
10月1日	第4回プラン策定委員会	各部会の事業計画作成の提起
10月22日	第5回プラン策定委員会	各部会事業内容の検討(3部会)
11月26日	第6回プラン策定委員会	//(3部会)
12月17日	第7回プラン策定委員会	プラン案の確認・印刷所決定
1月29日	第8回プラン策定委員会	プランの原稿校正
2月25日	第9回プラン策定委員会	実施要項作成
3月18日	第10回プラン策定委員会	印刷完了

### 2 プラン策定委員会委員名

委員長	横峯 慎一	委員	有田 悟
委員	有田 達司	//	大迫 真弓
//	堀 博幸	//	堀 浩司
//	栗脇 幸生	//	横峯 直子
//	鈴東 美喜	令和2年度	
//	横峯 明人	委員	諸留サダ子
//	今釜 義昭	//	有村 義男
//	濱園 徹	//	有村 節子



## 前之浜地域コミュニティプラン

令和4年3月 発行

前之浜地域まちづくり協議会

〒891-0205

鹿児島市喜入前之浜町7023

TEL 099-343-1118

FAX 099-343-1118





